

製品名: IL-13R α 1 (リン酸化 Tyr405) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04835**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	IL13RA1 IL13RA1; IL13R; IL13RA; Interleukin-13 receptor subunit alpha-1; IL-13 receptor subunit
別名	alpha-1; IL-13R subunit alpha-1; IL-13R-alpha-1; IL-13RA1; Cancer/testis antigen 19; CT19; CD antigen CD213a1
遺伝子 ID	3597.0
SwissProt ID	P78552
免疫原	抗血清は、ヒト IL-13R α 1 の Tyr405 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 371-420

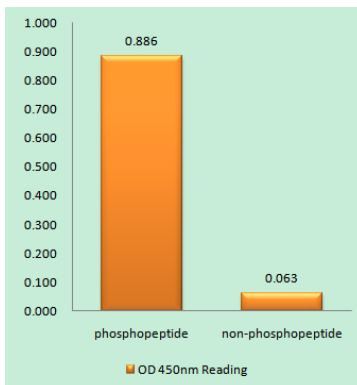
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン-13受容体のサブユニットです。このサブユニットは、IL-13受容体とIL-4受容体が共有するサブユニットであるIL-4受容体 α と受容体複合体を形成します。このサブユニットは、IL-13受容体の主要なIL-13結合サブユニットとして機能し、IL-4受容体の構成要素でもある可能性があります。このタンパク質はチロシンキナーゼTYK2に結合することが示されており、IL-13およびIL-4によって誘導されるJAK-1、STAT-3、およびSTAT-6の活性化につながるシグナル伝達プロセスを媒介している可能性があります。[RefSeq提供、2008年7月]、ドメイン：ボックス1モチーフは、JAKとの相互作用および/または活性化に必要です。、ドメイン：WSXWSモチーフは、適切なタンパク質フォールディング、ひいては効率的な細胞内輸送および細胞表面受容体への結合に必要と考えられます。、機能：低親和性でIL-13と結合します。IL4R- α と共存することで、IL13の機能的受容体を形成できる。また、IL4シグナル伝達における共通サイトカイン受容体 γ 鎖の代替補助タンパク質としても機能するが、IL2結合活性の増強において γ Cの機能を代替することはできない。、類似性：I型サイトカイン受容体ファミリーに属する。タイプ5サブファミリー。、サブユニット：インターロイキン13受容体は、IL4R、IL13RA1、および場合によっては他の成分からなる複合体である。TRAF3IP1と相互作用する。、組織特異性：普遍的に存在する。心臓、肝臓、骨格筋、卵巣に最も多く存在し、脳、肺、腎臓に最も少なく存在する。B細胞、T細胞、内皮細胞にも存在する。、

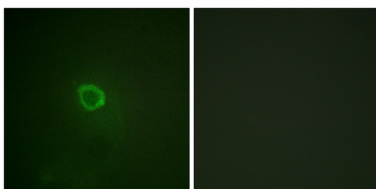
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Jak_STAT;

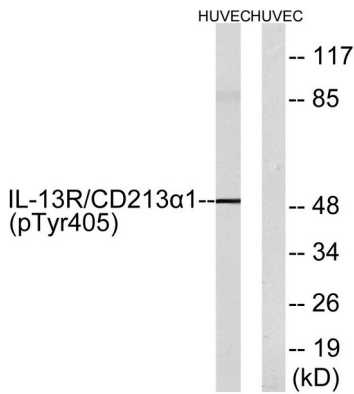
画像データ



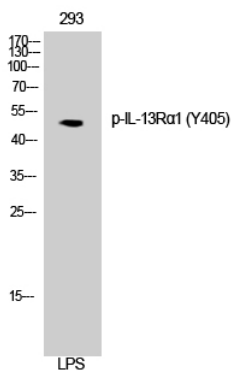
IL-13R alpha1 (リン酸化Tyr405)抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化ELISA)



IL-13R alpha1 (リン酸化Tyr405)抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



血清 20% 15% で処理した HUVEC 細胞ライセートの IL-13R alpha1 (リン酸化 Tyr405) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 IL-13Rα1 (Y405) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析